

第1学年 保健体育科学習指導案

作成日時： 年 月 日

指導者：

1. 単元名 (2)安全な社会生活 (イ) 応急手当

2. 単元の目標

- 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることができるようにする。
(知識・技能)
- 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現することができるようにする。
(思考・判断・表現)
- 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見しその解決を目指した学習について自主的に取り組むようにする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

本内容は、様々な事故等の発生には人的要因や環境要因が関わること、交通事故などの事故防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であること、安全な社会の形成には、個人の安全に関する資質の形成、環境の整備、地域の連携などが必要であることから、個人が心肺蘇生法を含む応急手当の技能を身につけることに加え、社会における救急体制の整備を進める必要がある。

4. 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）(応急手当について)

5. 指導と評価の計画（3時間）(応急手当のみ)

※評価方法については、まだ国立教育政策研究所より最新版の発表がないため、空白とする

6. 本時の指導 (2/3 時間)

(1) 本時の目標

- 心肺蘇生法の意義・手順及び AED の使用方法について理解させる。
- 心肺蘇生法の手順や方法について、学習したことを筋道立ててそれらを説明することができるようにする。

(2) 準備・資料

- ・チェックシート
- ・心肺蘇生法 説明用動画
- ・訓練用人形（心臓部のみも可）
- ・訓練用 AED
- ・メトロノーム
- ・ストップウォッチ
- ・プロジェクタ
- ・小黒板

(3) 展開

※評価方法については、まだ国立教育政策研究所より最新版の発表がないため記載していません

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1. 前時の復習</p> <p>・授業中、部活動中などに人が倒れた際の応急手当について再確認する。</p> <p>(1) 安全の確認について</p> <p>(2) 反応の確認について</p> <p>(3) 呼吸の確認について</p> <p>2. 本時のねらいの確認</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 新聞記事や教員の体験談など具体的な例を挙げ、応急手当の手順について想起させる。 ○ 本時のねらいを提示し、学習の見通しをもたせる。
	<p>長距離走大会の練習中に目の前で人が倒れた。 私たちには何ができるのだろうか。</p>	

3. 心肺蘇生法の実習（動画を視聴）
 ・チェックシートを使用し、自己評価を行う。

【心肺蘇生法の手順】

- ① 安全の確認
- ② 反応の確認
 <反応がない場合>
- ③ 救援の依頼（救護の依頼,119 番通報,AED の手配）
- ④ 呼吸の確認
- ⑤ 胸骨圧迫

- ⑥ AEDの使用
 ア 電源を入れる。
 イ 電極パッドを倒れている人に貼り付ける。
 ウ 指示に従い「電源ボタン」を押す。

- ⑦ ⑤～⑥を繰り返す。

- 1人1体の人形が準備できない場合は複数で交代させながら、必ず1人1回は実習させる。その場合は、自己評価ではなく、ペアになってお互いのチェックシートを使用して評価をさせる。
- チェックシートには経過時間を記入しても良い

- 胸骨圧迫によって脳へ血液を送り、脳の障害を防ぐことを確認する。
- 「強く、速く、絶え間なく」行うことが大切であることを確認する。
- 胸骨圧迫のテンポは、1分間に100回～120回で行うよう、また、圧迫の力は、胸が5cm程度沈み込むように圧迫することを助言する。
- 胸骨や脈の確認の際には、強く押さえないよう注意させる。
- 圧迫部位、力加減、テンポなどを確認させる。

- 心室細動には除細動が有効であることを確認する。
- AEDの電気ショック後、救急隊に引き継ぐまで、又は傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫から心肺蘇生を続けることを説明する。

	<p>⑧ 気道確保と人工呼吸 人工呼吸を含めるときは,⑤⑧,⑥を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人工呼吸によって心原性以外（窒息,溺水等）の心停止の救命率が向上することを確認する。 ○ 胸骨圧迫30回,人工呼吸2回繰り返し行うことを確認する。 ○ 人工呼吸のできる訓練人形が生徒全員分用意できない場合や時間が足りない場合は,指導者または生徒がデモンストレーションを行い,理解を促す。 ○ 人工呼吸のリスク、フェイスシールド等の存在を伝える。
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4. 本時の学習の振り返り ・チェックシートを基に自己評価や他生徒からの評価の良かった点を確認する。もし改善できる点があれば,チェックシートに記入する。</p> <p>5. 次時の内容確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救命活動は正しい手順と方法,さらに複数人で行うことが大切であることを確認させる。 ○次時はシナリオに合わせて,複数人で心肺蘇生法を実習することで,様々な状況においても自ら進んで救命活動ができる意欲,適切な判断と正しい技能を身につけられるようにする授業であることを伝える。

6. 本時の指導 (3/3 時間)

(1) 本時の目標

- 複数人で行う心肺蘇生法を実習し、状況に応じた適切な手順と方法を理解させる。
- 現在の救急医療体制の課題について理解し、救命率を向上させるための解決策について考えさせる。

(2) 準備・資料

- ・ ワークシート
- ・ チェックシート
- ・ 心肺蘇生法 説明用動画
- ・ 訓練用人形 (心臓部のみも可)
- ・ 訓練用 AED
- ・ ストップウォッチ
- ・ プロジェクタ
- ・ 小黒板
- ・ シナリオカード

(3) 展開

※評価方法については、まだ国立教育政策研究所より最新版の発表がないため記載していません

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
導入 (5分)	1. 前時の復習 ・ 心肺蘇生法と AED の使用方法について の手順を再確認する。 2. 本時のねらいの確認	<ul style="list-style-type: none"> ○ グラウンドで授業中に人が倒れた等,具体的な事例を挙げて前時の内容を振りかえらせる。 ○ 本時のねらいを提示し,学習の見通しをもたせる。 ○ 実習を通して,状況に応じて複数人で行う心肺蘇生法の適切な手順と方法を理解する。 ○ 現在の救急医療体制の課題について理解し,救命率を向上させるための解決策について考える。 ○ グループ別の実習ができるよう指示をしておく。
	突然の心停止における,救命率向上への方策を考えよう	

展開(40分)

3. 班ごとに心肺蘇生の実習

(1) 役割分担の確認をする。

- ① 発見者
- ② 応援者(救急車要請)
- ③ 記録係
- ④ 手順確認係(評価者)

(2) シナリオに基づき複数人での心肺蘇生の実習をする。

4. 実習を行ってみて気づいたことや迷ったことなどをグループごとにチェックシートにまとめ、発表する。

5. 4の発表を聞き、さらに気づいたことや疑問などを全員で出し合い、救命活動の在り方について考える。

- 4~5人で1班をつくる。
- 状況の異なるシナリオカードを2~3種類用意する。
(設定・案)
 - ・除細動の有無
 - ・運動の有無
 - ・場所(校内外)
 - ・倒れた人物設定 等
- グループごとにシナリオカードを引かせるなど様々なシナリオを体験できる工夫をする。
- 1回ごとに役割を交換し、時間まで繰り返させる。
- 胸骨圧迫は訓練用人形に対して行うよう指導する。
- 手順確認係(評価者)は一連の流れでかかった時間、良い点、改善できる点を他の生徒に伝える。
- 実習をしている間、机間巡視を行い、必要に応じて状況設定の補足を行う。

- グループから出た意見等を生徒たちに投げかけ、救命活動の在り方について考えさせる。
- 意見がたくさん出たシナリオについては、時間をかけて深めても良い。その際、それぞれシナリオごとに押さえるべきポイントについては、最後に板書して説明し確認させる。

<p style="text-align: center;">展開 (40分)</p>	<p>6. 救命率向上のために現在の問題点と対策について考える。グラフ(図1.2)から読み取れること,それをもとに社会における現在の問題点を考え記入する。</p> <p>7. 問題点を踏まえ,救命率向上のために必要なことは何かグループで考える。発表し,クラスで共有する。</p>	<p>○ どんなことでもよいので,思いついたことや気づいたことを自由に書かせ,グループで話し合わせる。</p> <p>○ 出た意見から,救急医療体制や環境整備など救命率の向上のために社会がどのように取り組んでいったらよいか考えるよう促す。</p>
<p style="text-align: center;">まとめ (5分)</p>	<p>8. 教師の話聞き,救急医療体制や環境整備など救命率の向上への取り組みについて確認する。</p>	<p>○ まとめとして,生徒から出た意見を整理し,さらに,グラフから読み取れる以外の事柄にも触れる。</p>